

第3回総合行政審議会(第16期)議事録

日時:令和3年8月5日(木)午後7時~午後9時

場所:勝山市役所3階 第2、3会議室

【第3回審議会】

1 開会

2 議事

《事務局による資料説明》

ブレインストーミング

○山内委員 例えば意識するのは同じ奥越なので、大野の方はどうなるのかということとは出ているんでしょうか。

●未来創造課 辻 大野市の高齢者人口ですが、推計で2030年は41.06%、勝山市とほぼ変わらないです。福井県全体で2030年、令和12年の高齢化率は33.82%、県内の中でも奥越は高い、ということです。

○中村委員 高齢化率ということで、これは全体の中で65歳以上の比率が、例えば2020年であれば37.7%ということなのですね。

ところがちょっと見方を変えて、生産年齢15歳から64歳、要するにお金を生み出している世代に対して、高齢者の比率は何人か、という見方を私はしてみたのです。子供さんの部分を除く、ということです。

そうすると2020年現在で0.73人、つまり生産年齢者一人が高齢者を0.7人担っている、ということです。ちなみに20年前2000年のデータの高齢者率って言うと25.6%なのですが、同じような計算をすると0.43人、20年前はお金を稼ぐ世代一人が高齢者を0.43人だけ担っていた、それが現在0.73人になっているということです。20年後の2040年の計算をすると0.90人になります。おおまかに言うと、1人で1人を担うことになります。20年前と20年後の40年の間にほぼ倍になっています。

平泉寺区でもこのような数字を出しているのですが、高齢化率は50%くらいまで近づくと、もう上がらなくなるのです。40年後50年後もそんなに上がらないのです。限界集落ということで平泉寺区もすぐになるんじゃないかなと思って同じ計算をした

のですが、ならないのです。おかしいなと思ったら、上の世代の逆ピラミッド型の上の部分は消えていくので、ならないのです。そういうことで、高齢化率というのはあんまり感覚的にはマッチしていないなと思いました。

今私の出したデータは驚異的に感じますが、これが現実の姿だと思えます。以上です。

○松田委員 そちらの数字の方が、大体体感しているものと合っていますよね。明らかに20年前よりも現役時代に負担が来ているという感覚と、すごく数字が合っている。

これはでも勝山に限らず、ですよ。全国のこれぐらいの規模の市や町はよく似たような感じだと思いますので、逆に言うと勝山が最先端を進んでいる、とも言えます。他よりも先に早く高齢化が進んでいるといえるので、何かよい方法が生まれれば、他の市や町が真似をしてきます。

逆手に取れば、お年寄りが生活しやすいようなインフラを整えて、他の市からお年寄りを呼び込んで人口を増やす、現実的かどうかは分かりませんが、せっかくお金をかけるなら、それくらい投資してもよいかもかもしれません。インフラを整えるのにもお金がかかりますから、勝山市民2万人程度の人たちのためだけにするのはもったいないから、それも一つの手かなと。それに伴う仕事をするための現役世代もついて来るかもかもしれません。

○中村委員 今の補足をさせていただくと、現役世代は実は年寄りだけではなくて、子ども達を育てていかないといけないという重荷も同時に持っている、ということが1つ。

それとこれは3月の広報なのですが、予算の収入と支出のグラフです。真ん中の市税は、大雑把に言うと1/4から1/3あるかないか程度なのです。あとはもうほとんどが地方交付税など国から降りてくるお金で、市が自ら生み出しているお金は1/3くらいというのが実態なのです。

さっきの高齢化率を、現役世代の減少率と考えた方がいいと思うのです。計算してはいませんが、20年前と20年後の現役世代数はきっと半分になっていると思います。2000年は1万6720人、20年後は8000人、20年前と20年後で40年のスパンがありますが、市の財政が非常に小さくなっている、急激に縮んでいくということです。何が言いたいのかと言うと、ものすごく危機がある、危機感を持つべきだなということです。

将来的に急激に縮小していく中でどうやって財政を維持していくかは大問題だと、私はそう思うのですが、参考までに補足させていただきました。

○石塚委員 高齢化率が高いままで維持していくというのは皆さんと一致している見解だと思いますが、予算が減っていくのも当然当たり前の話です。市の方向性という

のは、限られた予算内で実際どこにその財源を重点的に配分して、市民が暮らしやすい市政運営をしていくかというところで、要するに予算の配分をどのようにするのかの指針づくりというのが、今回の第6次総合計画の話し合いの根幹にあると思います。

ブレインストーミングという中で、3つの命題に分けられているわけですから、今の話でいくと、高齢化率が高い中でそれぞれのまちづくり、暮らし生活環境、人づくり、人材育成社会、仕事づくり、産業振興。いわゆる暮らしと人材と経済のこと、おおまかに見てこの3つのことで、それぞれどういう風な指針が示せるかということだと思えます。ブレインストーミングの進め方として、勝山市はどこを中心にして方向性を持っていくか、という意見を出して行くのがいいかなと思いますが、どうでしょうか。

暮らしやすいまちづくり・生活環境について、高齢化が進む中でも暮らしと生活環境を維持していくために、どこに重点的にお金をかけるかという部分が、予算縮小する中で、ということに繋がっていきます。私の祖母もそうでしたが、死ぬ直前まで元気に暮らしてもらえれば、家族も幸せに暮らしていけます。介護で大変だったり、自分の時間が取れないとかそういう不幸なことにならないからです。高齢者と共存する社会の中で、高齢者の健康というところに資産を重点的に配分すれば、必然的に暮らしを維持できていると思っています。

田舎のおじいちゃんおばあちゃんは畑仕事をされていて元気な方が多いですが、基礎疾患があったりすると動きづらくなるので、そういう人をなるべく減らす策は当然やっていると思いますが、それをさらに進めた方がいいんじゃないかな、と思います。高齢者が元気じゃないと、現役世代がなくなります。

○中村委員 今おっしゃる通り勝山市の健康寿命とは、すごく高いのです。

全国の平均が男性だと72歳に対して勝山市は78.4歳、女性に関しては、全国平均74歳に対して勝山市は83歳というデータが出ています。

これは勝山市の強みだと思います。原因を探っていき、強みをパワーアップしていくというのはすごくいい視点だと思います。

○塚本会長 今おっしゃった通りだと思います。健康寿命は大事だと思いますし、福井県は全般、奥越は特にそうですが、社会科学で社会関係資本という概念がありまして、地域とか知り合いとか、ネットワークをいっぱい持っていて、繋がりが多いほど無理なストレスが下がりますし、健康習慣も維持しやすいので元気で長生きできるのではないかと社会科学の中では言われています。

都市部の男性はずっと仕事中心の生活になっていて、定年退職すると人間関係というネットワークを失ってしまって弱っていく、というのが言われるのですが、多分、勝山の男性は地域にネットワークを持っていて、それが一つの大きな強みなのかなと思

います。

ただ福井県の人間関係、奥越もそうだと思いますが、血縁あるいは地域での繋がりがみたくところが中心になっていて、さらに知らない人だからしっかり人間関係を作っていくみたいな、ブリッジとか言い方をしますが、そういった新しい繋がりも作っていくような仕組みづくりをしていく、さらに健康寿命を伸ばしていく、その辺りの観点があるといいのかなという風に話を聞いて思いました。

私の感想はそんな感じですが今の健康寿命ということに関して他にご意見あればよろしくお願ひしたいと思ひます。

○織田委員 先ほどお話のあった働く世代率が変わらないことが、高齢者の負担率に関係するのかなと思ひたのですが、何歳までを平均として考えるか、何歳までを伸ばすか、ということ是非常に大きな選択だと思ひます。働く世代にすべきことをしっかり考えていかないと、いつか支えきれなくなってしまう。勝山みたいな車社会で、車を運転できる年齢もある程度決まっています、その年齢を超えてしまう方がたくさん出てくると、インフラの整備等に地区でお金が発生すると思ひ、働く世代の生産性を上げるようなお手伝いをしていくのもいいでしょう。高齢者をサポートできる体制もできてくるのではないかと思ひます。

○塚本会長 はい。ありがとうございます。

○富田委員 確かに、今奥越の就職率を見ているのですが、5年前と比較すると、高齢者就職率のポイントが5ポイント以上上がっています。

全国どこでも一緒に、その中で働く世代が支える、という話があります。一方で高齢者の方々も働くことによって生きがいを感じる、体力もつく、環境も良くなるということがあります。

国の施策としては65歳で定年となるのを、将来的には引き上げる。これは年金の絡みのことも当然あるのですが、その一方で高齢者の方が元気なものもありますし、働く環境もひと昔前と違って、非常に働きやすくなっている、ということもあります。

今織田さんも小泉さんも会社を経営されているので、高齢者の方を活用して、そういった労働力を活かすと、地域の産業も発展するという部分が大事です。国の方では高齢者の採用に向けて、もう10年以上も前に法律を改正しました。

求人募集につきましても、それまでは年齢もある程度決まっていたのですが、年齢不問にして、高齢者の方と若い人が融合してそういったまちづくりをしていくためにも、高齢者が働き続ける限り、働きたい気持ちがある限りは、そういった場所の提供をしてあげるといふことも非常に重要になってくるのかなと思ひます。

また一方で国の重点施策といたしまして、介護分野の人材育成確保、職業訓練を

通じた取組みも行って、高齢者の方が働きやすい、住みやすい、まちづくりというのを前面に出していくのが必要かなと思いました。以上です。

○塚本会長 はいありがとうございます。

○松田委員 高齢化が深刻なので、どうしても高齢化に対する話ばかりになってしまうかと思いますが、私はどちらかと言うと若い世代へ投資した方がいいのかな、と思っています。

市の財政もかなり縮小していくのであれば、どこかでやっぱり絞らないといけないし、どこかに集中投資した方が絶対効率はいいです。だから僕としては、どちらかと言うと、何か教育であるとか、若手の子供達の方を軸にした方が将来的にはいいのかな、と思ってはいます。

お金と市の予算をどうするかというような切り口の話をするのであれば、子供達とか若手、子どもを育てる世代とか、そんなところへの投資がいいのではないかなと思います。それがお年寄りにも波及するような回り方をすれば、一番ベストかな。

例えば、市としては子供世代に予算を投下するが、お年寄りは投下された何かを担う仕事を与えられるとか、中学校の部活を廃止すると中学生が町に溢れますので、4時以降町に溢れた中学生をお年寄りが面倒を見ていく、市はそこにお金を投下する。そういったようなサイクルができると、学校の先生も4時以降は次の日の勉強のための準備ができるし、部活に毎日2時間も費やすこともなく、子どもたちが生き生きとお年寄りと一緒に色々な技術などを学んでいけるような回転も生まれます。あくまでお金という切り口で言うのであれば、お金を投下するのは子どもたち、子育て世代、お年寄りが生き生きできる何かしらの事業をつくっていく、というのがなんかいいんじゃないかなと思います。

○塚本会長 ありがとうございます。

○石塚委員 市の施策の中で退職された方の人材バンク的な物ってあるのですか。例えばシルバー人材以外で、行政職や教職の退職者のスキルを活かした活動などって、聞いたことはないですが、何かあるのですか。

○谷内課長 今のところは聞いたことがないのですが、外部人材の活用ということで学校の部活の制度が変わってきてまして、学校の先生だけではなく、スポ少でコーチや監督をしていた人が学校の部活動を見ていく、というような動きがあります。

お年寄りの方で、昔取った杵柄でスポーツができる人もいますが、例えば文化系の部活なんかをお願いするとか、そういったことも考えられます。今のところ人材ワー

ク的なものはないのですが、そういうものがあるとお年寄りの活躍する場というのが出てくるんじゃないかと思います。

○松田委員 子育てを機に勝山に戻ってくる夫婦とか家庭って結構いるんじゃないですか。そういうデータってありますか。なんで戻ってきたのか聞くとか。

僕も結婚して福井市に住んでいたのですが、いざ一人目の子どもが生まれた時に、この子をどこの保育園、幼稚園に入れて、どこの小学校に・・・と考えたとき、福井市の学校はありえないな、勝山に帰ろう、と決めることができました。

子育てという意味では、勝山は凄く優秀だと思います。そこを上手く活かして、市の財政は観光とかはやめて、そこに一極集中でいいんじゃないですかね。

○小泉綾委員 お金だけじゃなくて色々な投資ということで私が思うのは、分散してちょこちょこ幅広くやっても、あまり効果は出ないんじゃないかなということで、やるなら絞ってやったほうが、より大きな効果も出るし、アピールもできるんじゃないかなと思います。

福井県は学力的に優秀だと全国的に知られています。子供の体力の面でも秋田と福井が優秀だと全国の方が知っています。お付き合いのある銀行の支店長さんは2年くらいで転勤されるのですが、その中で子どもは福井に残していきたいという話を聞きます。

他の県の方も福井県で子育てをしたい、その中でも特に勝山市はトップクラスだよねと言われるくらいのところまで、市を上げてお金も投下する、力の全てをそこに注ぎ込むくらいのことをやった方がいいと思います。

じゃあそこで住みたいな、であればそこで仕事をする人もたくさん増える、特に若い人に増えてもらえる、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に家族ぐるみで引っ越して来ようって思う人も出てくるんじゃないかなと思います。

やりたいことはいっぱいあるけれど、ひとつに絞った方がいいかな、と話を聞いていて思いました。

○未来創造課 谷内 子育て支援に勝山市は割と力を入れていまして、他の地域の人から一番羨ましがられるのが児童センターが無料だということです。他の地域ではまずありえないというのと、保育園の待機児童がない。ここは非常に誇れるところで、児童センターが無料なのは当たり前じゃないのって勝山の方は言うのですが、実際はそうじゃないのです。ここは押せるところかな、と思います。

ただ、PRが下手というのがあるので、そこはきちんとしていく必要があるところです。

もう一つ、まんべんなく色々な所に投資するよりも少し絞った方がいいよ、という話ですが、確かにそうだと思います。どこかに投資することで実は全体の利益に繋がる

という投資の仕方が一番いいんだろうな、というのはあります。

そこが何か、というところを今から考えていかなければならないと思います。高齢者も若い人も子どもも全てが、いい暮らし、安心した暮らしができるように、どこに投資するのがいいか考えていきますので、また皆さん教えてください。

○塚本会長 ありがとうございます。

先ほどからのお話ですが、どこにお金を投資して波及させるか。子育て支援に投資すれば一番波及効果が出るんじゃないか、という考えが出てきたりしていますね。

先ほどの高齢者の健康寿命の話考えた時も、子育てとか学習支援といったようなボランティアに高齢者を活用するという形で、子供と触れ合っていると高齢者も健康的に長生きできるようになっていくと思いますので、そういった意味で、高齢者に生きがいを感じてもらいながら子育て支援を進めていくみたいなモデルが作れていくと非常にいいのかなと感じました。

○飯田委員 皆さんの話を伺いして、まさにその通りだなと思いました。お金は限られていますので、どこかに集中的にやるのがいいと思いますが、やっぱりリターンって重要だと思っています。

皆さんの話だと、子育て支援に集中してお金を使うことで人を呼び込んで人口が増えるので、また税金が増えていくというようなりターンが期待できると思いますが、もう一つの視点として、1人当たりの所得を増やすということがあります。

勝山というと観光がまず先に頭に浮かびますので、観光産業に集中して何か支援して1人当たりの所得が増えれば、税金の減少に歯止めがかかっていく方法も考えられるんじゃないかなと思います。

例えば多文化理解教育を進めていくことで、全体の観光産業に役立ってきたりすると思いますが、そういった視点もあっていいのかなと。人口を増やす、1人当たりの所得を増やす、色々な視点があると思いますが、その辺りが、私は勝山に住んでいないので、市内にお住まいの皆さんはどうお考えなのか気になります。

○織田委員 私の会社は縫製業をやっておりまして、最終の製品を作らせていただいています。自分たちは県外から仕事をとっているのですが、県外へ営業に行っています。

勝山市の観光は恐竜関連に大きなお金をおいています。この2年ほど会社の方でも取組んでみようと思ったのですが、自分たちが今まで勉強してこなかったのが、ノウハウが足りず、物は作れるが、デザイン、企画力、判断力に欠けます。

今観光産業に矢を向けていくことはすごくいいと思いますし、それをするための教育も必要で、企画力とか最終繊維までできるものがあれば、観光産業に従事する人が増えると思います。

今はTシャツとかトートバッグだけでも何千万のお金が動く中で、大阪と東京で全体の売上の数%を勝山に残している、というのが現状です。それを1から勝山でつくることで、働く世代の働く場ができるかなと思います。

そのためには、関連した教育が必要なんじゃないかなと思います。今までと違うというか、奥越明成高校や勝山高校にない工業科の教育が必要になってくるんじゃないかなと。想像力や自由力、自主的に体験していくことでどう育てるか、先輩方のノウハウを次の世代にどう伝えていくかが大事です。

私達は会社の中で考えてしまいますが、世代が替わり、若い世代にも未熟さというものがありますし、時代が大きく変化する中で時代に合わせようとすると先輩方の意見を聞きながら、若い人たちの考えを補充していかなければならないと思います。

○松田委員 私は観光投資には反対派です。

今も毎日、恐竜博物館への道に何千台も車が通りますが、例えばそこでスイカを切って売って、と言われたら、今の仕事を辞めてその仕事をする人は何人いますか。

だから観光に投資している場合じゃない、そもそも「あそこでスイカを売りたい」という人を作らないといけない。まずは教育に投資して、そこから観光が生まれるとか、産業が生まれるとか、文化が生まれるとか、そこからなのです。これが僕の考えです。

例えば今の10代の子供達で、毎日あそこに何台車通るんだったら、俺はそこで大好きなお米を無農薬で作って、そのお米でおにぎり作って、通る車に売ろうと考える、そういう子供を生む。そういうのが先決なのです。今の大人達にはそういったことはできません。そういう教育を受けていませんし、今の生活がありますし。

これからは、これからの世代がいかに自分の人生を歩んで行けるかという教育が大切だと思います。そこに必要なノウハウであるとか技術や知恵であるとかを、高齢者の世代がどんどん託していけばいい。その流れに市は投資していけばいいんだと僕は思います。

○山内委員ブレインストーミングということで、自由意見なので、あーなるほどなーと思いつつながら考えた事が1つ。

高齢化ってことは避けて通れないわけで、これに対して多分極端な言い方をすればという話であって、全くそのことを考えていないという意見ではないとは思いますが、段々歳をとっていく人が勝山市が増えてくるに当たって、住みやすいようにしようと思うと、そこは無視できないところじゃないかなと思います。

さっき言った健康寿命とか、やりがいに関して、シルバー人材センターなどの働く場所や、コミュニケーションの場はもちろん、ホットサロンなど、地域地域で市の補助をもらってやっているところもあります。

そういう風に、働けなくても近所の人とコミュニケーションをとって身体的、精神的

な健康を保つ市、というのが親しみやすい市かなと思うのが1つ。

それと、あえて反対意見を言うとなると教育についてです。教育を受けたいって思いはしても、住みにくいところだったら本当にここで教育を受けたいと思うかなと。

何が言いたいかというと、実は僕の子どもが福井に就職して福井まで通っているのです。親とすると、勝山の子と一緒に勝山で住んでくれるといいなと思いますが、福井の子と仲良くなったりすると、きっと勝山から出て行ってしまうやろな、と思います。そういうふうな勝山市で、なかなか住んでみよう、とならないと思います。コミュニケーションの場であったりとかも含めて。

大野市で勤めたことがあるのですが、大野市ってそういう小さな活動がポツポツあるのです。10人集まってやるような活動で、そこに若い人が参加して、帰省するとそのグループに参加して一緒に飲む。飲むのが全部いいわけじゃないですが、そういうことやってるところは、地域の強さを感じるという事が1つ。

先ほど織田さんがおっしゃった働く場というのがやっぱり地元にあると、帰ってきやすいな、と思います。例えば息子は福井に勤めている、では息子の嫁さんは小泉さんの会社で働かせてもらおう、となると生活は安定するわけで、今年大卒3人、高卒3人、県外からも来ましたが、これはすごいなと思って聞いていました。その1人1人がなにかなるわけじゃないですが、そういう積み重ねが今勝山市に欲しいなと思います。

○中村委員 ちょっと視点を変えて、コンパクトシティという考え方があります。勝山市だけではなく日本全国で過疎化高齢化が進んでいます。日本人口は1億2800万人です。戦後の人口は8000万人くらいだったのが1億3000万人まで膨れ上がり、縮小して元に戻りつつある状況です。

勝山市では第1回総合行政審議会の時に除雪の話をしていましたが、例えば今、20年前30年前と比べて道路の数はものすごく増えていると思います。だからある意味、除雪も大変になっています。

コンパクトシティ化とは、その町を小さくまとめてしまおうというものです。こういう発想なんだから道路もそんなにいりません。勝山の市街地、中心地は古い空き家が増えているのに、郊外には新しい家がどんどんできています。これは全国で、計画的に20年30年後に時間をかけて集中的に、バスなんかも小さなところを回るだけでいいような形にしたいという考え方があるのですよ。

この前の福井新聞にも載っていましたが、富山市なども有名です。各地で色々と実践し始めているところがあるのです。投資の話ではなく、実際にもうインフラにお金がかかっているのです。

これは余談ですが、上下水道を見に行っただけです。平泉寺区で公民館が主催してくれたもので、大人の学習で行って参りました。上水道を見ますとあちらこちらにパイプがずっと通っているのですが、非常に老朽化が激しいし、設備も古いのです。

例えば下水にしても耐震のものではなかったりします。上水道にしてもそうですし、耐震化に体制が追いついていないのが現状なのです。例えば地方の方でも、たった一軒家があると道路の除雪をしないといけないし、上水道も維持していかないといけない。そういうことをなんとかコンパクトにまとめて行こう、というのがコンパクトシティ化です。そういう考え方を勝山市も取り入れてほしいなと思います。

○塚本会長 はい。ありがとうございます。

●未来創造課 谷内 コンパクトシティの考え方は、都市マスタープランの中でも前から謳っています。今もおっしゃっていましたが、道もそうですがライフラインも非常に老朽化が進んでいまして、下水道なんかも早くに整備したので全国で比べても老朽化による交換の時期が早目に来ています。

その中で、平準化しながら少しずつ入れ直したり、ということは今からやり始めるころではありますが、何をするにしてもやっぱりお金がかかります。

郊外に住んでいる人を切り捨てるか、というとそういうわけにはいきません。

餡ではないですが、住み移ってきた人に何らかの差をつけるやり方を富山市もしていたんじゃないかなと思います。自分が生まれ育ったふるさとをそのまま捨ててくるというのは、感情的に一気に進めないで少しかかるかもしれませんが、真ん中に集中していく政策は大切かなと思います。

一方で、勝山市は他の自治体と比べると割と狭い地域に住宅が密集しているということもあります。

他の地域に行きますと、もっと広大に中心部から離れている集落はたくさんありますので、一概に勝山市の集落が中心部から離れすぎているということは言えないかな、とも思います。

財政規模に合わせたライフラインであったりとか、除雪体制なども、その辺りの相対的なことを考えて人の住む場所を考えていかなければならないと思います。

第6次総合計画の10年間でできるか、というとなかなか難しいかもしれませんが、20年、30年後くらいには一定の考え方とともに実現をしていかなければいけないと思います。

○中村委員 市役所の方を責めるつもりは毛頭ないのですが、去年の市長と語る会の時に、前山岸市長に「市長はコンパクトシティ化を考えたことはありますか」と質問をしました。答えは「ありません」でした。その理由は、切り捨てになるからということでした。

山岸さんは市長を20年ほどされていて、それはそれでいいのですが、今後30年後に向けて、コンパクトシティ化は進めていくべきだと私は強く思います。

富山市長は退任されたようですが、何十年も強い意志を持ってやり続けないとできないことです。市のトップの方が強い思いを持ってしっかり進めないと、30年後にはおそらく多くのところで財政が破綻している、ということが起きると思います。先ほどおっしゃられていましたが、勝山市はコンパクトでしっかりしている、魅力を出せるころだと思っています。

○塚本会長 はい、どうもありがとうございます。私も全く同じ意見で、20年30年後の話ですが、国立社会問題人口研究所の人口推移を見ると、80年くらいで日本全体の人口は半分くらいになります。80年前は人口が半分だったのが今ではその倍になり、また80年後には半分になるという変化を経験することになりますが、今の出生率を見ると、1億人で人口減少を止めることは絵空事でしかないと感じてしまうので、戦略的、平坦的に縮んでいくのは非常に大事だと思います。

インフラの問題を考えた時にも、大きな面積を維持しようと思うと若い世代に大きな負担をかけることにもなってしまうので、戦略的にコンパクトにしていくことは、やはり現役世代、今の若者や子供たちが将来重荷を背負い込まないようにという観点からも、負の遺産を遺さないという意味でも、非常に重要な視点じゃないかなと感じています。

○石塚委員 山岸市長のときにエコミュージアムをやりだして、地域をそれぞれ大事にして、特色を出して地域を盛り上げていこうという政策で20年やってこられたのですよ。水上市長になって、基本理念はそんなに変わっていないと思いますが、水上さんは山岸さんより合理的な考え方を持っていらっしゃるので、たぶん水上さんはコンパクトシティを進める考えでいらっしゃると思います。今の話の中でコンパクトシティを考えるうえで高齢化は切り離せないのですが、水上さんの考え方としては、コンパクトシティにあたってインフラにしても自動運転バスを走らせるとか、一定の地域に戸数を集めると国から補助が出る法律があって鯖江市や越前市も取り組んでいますが、そういったことを推進してコンパクトシティを進めていかれると思います。

○未来創造課 谷内 水上市長がコンパクトシティそのものについて言及しているかという点、少なくとも私自身は聞いていません。

一方で、今までは色々な道であったり橋であったりを要望に応じて直してきましたが、今後はやはりどこかで直せないところは切り捨てなければいけないところはある、そういう言い方はされています。それがコンパクトシティとどう繋がるかというところがありますが、コンパクトシティでないがために直せないところが出てくる、そういうことはおっしゃっています。直せないところに住んでいるのであれば、こちらに引っ越してくるか、という考え方になるかはわかりませんが、そうおっしゃっています。

○小泉綾委員 今話を聞いていて思ったことで、市と会社を一緒にしてはいけないのですが、今うちの会社も敷地が広くて建屋が古い、インフラもボロボロになっている、コンパクトにしていかないといけないという状態になっていて、まさに一緒だなと思って聞いていました。

私はそれをやらないといけない立場にいます。確かに工場が点在している中で、使っていない場所もあります。ですが、離れた所でも生産していれば水と電気を必ず通さないとはいけません。非常に効率も悪いし不経済ですが、それを移設するのにもお金がかかるし、移設するにあたってインフラを整備していかないとはいけません。

お金もかかる上に、移設している間の生産をどうするのだとか、色々なことを考えて、やる側は本当に大変だというのは、実感しているところです。

理想はもちろん言うべきだし、こうありたいと思うのも大事だし、市役所の方も大変なことになるなということを感じました。私の会社もコンパクト化をしなければならぬ、しないと会社の将来はないと思っています。

勝山市としてもこういうことを考えていかないとはいけませんし、みんながハッピーな状態で物事進められることはないので、どこかで誰かが我慢しなければいけないと思います。

そこはみんなで少しずつでも我慢して、先を見てがんばりましょうと市が音頭をとってやっていただけたらと思います。私も頑張らないと、と思いました。

○塚本会長 はい。ありがとうございます。

○中村委員 また少し違う話をさせていただきます。コンパクトシティはガードする空気があった話なのですが、今度はうって出る話をしたいのです。

平泉寺区で私が今取り組んでいるのは、ALTの外人さんに平泉寺区に住んでもらうことです。その目論見が何かと言いますと、彼らにSNSで発信をしてもらいたいのです。なぜ外人さんかと言いますと、今平泉寺区に住みたいと思っていられるのは、主に外人さんしかいないのですね。

去年ALTの先生と機会があって話を聞いたら「平泉寺区に絶対住みたい」と、こうおっしゃっているのです。奥越にALTは20名弱いらっしゃるらしいのですが、ほとんどの外人さんは平泉寺に住みたいと思われているよと、そのALTの先生は教えてくれました。

なぜかと言いますと、外国人にとって日本は遠い国で、遠い日本に来て何を求めているかという、どこにでもあるような建物じゃないのです。京都に行っても、金閣寺や銀閣寺に行っても人だらけだし、非常に小さなエリアだと、あまり魅力を感じていない人がいっぱいいるのですね。

日本全国の中で思いもよらないところに外国人がスポット的に集まっているという

ところがあります。見たことありませんか。なんでそんなところに、と思うところに外国人は行くのです。それが SNS で拡散されて、多くの人に来るのです。何が言いたいかというと、平泉寺はそういうスポットになりうるということです。

手始めに外人さんに平泉寺に住んでもらって、彼らに魅力を発信してもらおう。平泉寺で日本人ではなくインバウンドを相手にしたい、そう思っています。土産物屋があるような観光地にしないでいい、今のままの自然のままの平泉寺にして、日本でなく世界を相手にした勝負をしたい、勝山市にもそういう発想になってほしいのです。それだけに見合う資産があると思います。

例えばスキージャンプもそうです。六呂師高原も勝山市ではないが近くにありすし、恐竜博物館もあります。もしかしたら外国人はスキージャンプや恐竜博物館には見向きしないかもしれませんが、平泉寺に行きたいとは思ってくれるかもしれません。平泉寺には土壌がいっぱいあるので、宿泊できるような形にすると外国人はすごく喜ぶと思います。そういうような産業の作り方は十分可能だと思います。

それが今、平泉寺の人は白山神社の価値なんてこれっぽっちも分かっていない。同じように、勝山市の方も、私に言わせれば勝山市の価値を分かっていません。外国人が感じるような魅力は、勝山市にいる方にはほとんど自覚がないのです。海外の方の視点を大いに利用すれば、化けるような発展をすると私は思っています。

○塚本会長 ありがとうございます。

今のは面白い発想だと思いました。私も研究で台湾に行ったりするのですが、冬は台湾の国際空港から、小松空港行きに日本人は数名しかいなくて、台湾の方がいっぱいいます。どこに行かれるのかというと黒部や立山です。台湾は雪が降らないところなので、雪を見るというのはものすごくテンションが上がって楽しい、みたいなことを聞きました。

何年か前に向こうの訪問介護ステーションをやっていらっしゃる方にインタビューをさせてもらう機会がありました。その縁で、その方が日本に来られた際に、私もその方も英語が得意ではなかったもので、恐竜博物館なら中国語のガイドがあるということで、そちらに行きました。博物館よりも、その駐車場の雪の上をソリで滑るところの方が 100 倍楽しそうにしていました。

台湾の方を呼ぶんだったら雪というのは武器になると思います。いきなりスキー場でスキーやスノーボードをするのはハードルも高いと思いますので、雪遊びならそりに乗ったりとか、子ども達と一緒に雪合戦ができるとか、意外とウケてくれるんじゃないかなと、今話を聞いていて思いました。

ブレインストーミングということで話をさせてもらいました。そういう芽はあるんじゃないかなと思いますし、子供の教育という話も出てきたと思いますが、多文化教育みたいなことを子供にどうやってしたらいいのかみたいなことを、考えていったりするのも

面白いかなというふうに話を聞いて思いました。

- 中村委員 付け加えなのですが、私の平泉寺の5、6年後のイメージは、ALTの先生と平泉寺の子供達が楽しそうに英語でしゃべって遊んでいる姿なのです。

それがテレビに放送されて、いいなと思った都会の親達がここに住もうと思ってくれる、テレワークで日本人のお金持ちが来てくれる。また外国人達はインバウンドで「ここいいな」と来てくれる。インバウンドの外国人さんは何年かしたら出て行ってもかまいません。都会の金持ちも変わっていてもかまいません。そういう雰囲気、質の高い、ありのままの大自然の平泉寺の中で、そういう人たちが来て、文化が融合した面白い雰囲気の村「国際ビレッジ平泉寺」って勝手に名前つけてますが、そういう風になることも夢じゃないと思います。

勝山市もぜひ、そういう方向で大きな夢と手段を取って欲しいなと思います。今はそういうことも不可能じゃないです。ないのは発想だけです。

- 松田委員 じゃあ僕もビジョンを言います。僕は10年後20年後ぐらいまでにはやっぱり学校作りたいですよね。地元の大人達が先生をして、地域の子どもたちや、大人でも学び直しができる、そんな高校みたいな大学みたいなものがあるといいんじゃないかなと思っています。そこが勝山市の教育の中心になると言うか、僕が言う教育は、文科省が言う義務教育の学力テスト100点とかじゃなくて、ちゃんと生きていける、社会人になるための教育ということです。

例えば、勝高を卒業したらどんな仕事ができるのかということは、僕は普通科高校を卒業していないのでイメージが湧かないのですが、例えば僕の会社に勝高を卒業する18歳の子が来ても、多分面接は通りません。そういったことを考えると、勝高があるだけでは駄目なのです。

僕がソフターだからソフター寄りの話になりますが、社会には他にも色々な職業があります。そういった職業方面を経験できるような地域の場合、そういったものを提供して、今の中学校の部活も止めて「部活」と「社会に出るための準備」の中間みたいなことが、地域で出来ればすごくいいなと思っています。社会に出るための勉強です。

もちろん、大学に行くための受験を反対しているわけじゃないのです。それはあくまで一つの趣向で、僕は大学に行ってこんな風になりたいって思う子と、僕は将来お花屋さんになりたいという子は同列です。

だったらお花屋さんになるためのプロフェッショナルな勉強した方がいいよねと思うし、医者になりたいなら医者になるための勉強をするべきだし、プログラマーになりたいならプログラマーの方面に進めばいい。そういうのを学べて、体験できるような場所が勝山市にあればいいんじゃないでしょうか。細かいことを言えば広報誌は紙ではなくすとか、まだありますが、大きくはこんな感じです。

消防のために消防局があるのなら、市が広報としてソフトを作る、広報として市民とつながるためのものが、消防局と同じレベルであってもいいんじゃないかなと思ったりというのがあります。

- 大石橋委員 まちづくりという部分で、若者への投資、子どもへの教育を進めていくことで、勝山にはお年寄りも増えていくのですが、教育に関わることで高齢者が元気になるような仕組みづくりができればいいな、と皆さんの意見を聞いていて思いました。高齢者が弱らないための仕組みづくりとして、身体が健康であること、心が健康であること、そして社会性を失わないということが大事だと思っていて、子ども達と関わる部分で、お年寄りならではの知識、例えばお茶とかお花とか、部活の中でお年寄りが持っている知識が活躍できる場があればいいなと思っています。

お年寄りの社会性の部分について、あまりお年寄りの方に補助金とかかけられないという話があったのですが、社会性を失わないためにということで、耳が悪くなると人との会話ができなくなったりとか、家族ともしゃべらなくなって痴呆になってしまうということがあると思います。補聴器の補助など、市町村でやっているところは少ないのですが、取り組んでいるところもあるので、引き込まれないための手助けをしてあげることで、元気に社会と繋がれる仕組みができたらいいかないかなと思いました。

- 石塚委員 皆さんの話を聞いていて、私も10年後にこうなっていたらいいなと思ったことが2つあります。よくインフラでお年寄りの足の問題、というのがありますよね。多分もう試算はしているのですが、バスの自動運転化。これはもう都市部では実用化してやっているところがありますよね。県内だと永平寺が参道と入口だけやっていますが、もう自動運転もレベル4まで実用化しているのです、おそらく数年のうちに商業で自動運転化される都市が出てくると思うので、勝山市も真剣に考えた方がいいと思います。

勝山市の基幹道路って他の市や町に比べると割と楽なのです。後はそこから支線を出ずに走らせればいけると思います。まちづくりの中で真剣に取り組んでいただきたいな、と思います。10年後に商業ベースで走らせられるようにやっていけたらいいな、というのがひとつです。

あともう1つの、お年寄りの生きがいづくりと、子ども達とのとっかかりの話ですが、本当にいいなと思います。今の松田さんや大石橋さんの話にもありましたが、私は、お年寄りをボランティアにつかうのが大嫌いで、ボランティアじゃなくてちゃんとお金を出すべきだと思います。その方が高齢者の方も責任をもってやってくれます。シルバー人材もお金を払うのでしっかりやってもらえるのですが、お年寄りに色々なこと頼むのならお金を払いましょう。これはどこの行政もあまりやっていないのですよね。

皆さん、暇なお年寄りだからということで、やる段階では払うのですが。

お年寄り個人もボランティアで参加してやりがいづくりみたいな感じでやっているのですが、しっかりギャラを出したらもっと真剣に取り組んでくれますから、しっかりしてもらいたいなど。これからお年寄りが多くなってしまうので、そこは責任を持って取り組んでもらえたらな、と思います。

○山内委員 今までの話の腰を全部折ってしまうかもしれませんが、こういう中での意見は色々聞く、話し合う場はあるのですが、例えばコンサルティングの人、外部の人の話などは、市として活用というか、そういう考え方をしたことはおありになりますか。

何故こういう聞き方をするのかと言うと、さっき僕えらいなと思ったのは、やりたいことがあるが、どうやったらいいか分からない、ということ。みんなそうだと思いますよね。

大野の人から見ると、なんで勝山は博物館もあってスキージャンプもあってお城もあって平泉寺もあって色々な観光資源があるのに、なんで勝山は頑張らんのや、それらをもっとうまく使えんのや、というのが大野の人からの勝山を見たときの意見なのです。確かに大野から見たらそうだなと思います。

今塚本さんや飯田さんがおられて、外部というとおかしいですが、他所から見た目、内側にいる人からの目ばかりじゃなくて、他の所からどう見えているのかな、ということを知ったり意見を求めたりしたことはあるのか、というわけではないのですが、そういうのがあったのかなって単純に今思ったので。

●未来創造課 谷内 勝山市も一級品の施設がたくさんあるのに、なかなか使いきれていないのが現状で、昔から観光客をどうにか町なかに呼び込むという施策をもう何十年も前からやっているのですが、なかなかうまくいっていないのが現状です。

外部の人の色々な話とか、コンサルティングも今までやってきました。しかしなかなかうまくいかないという部分が正直ありました。

今は市の職員だけでは技術面や能力面で不足する部分もあって、そういった、もの見方とか、そういった施設の活用のノウハウというものを専門家(外部人材)を活用した方法というのは今後も取り組んでいかなければならないと思っています。

地域おこし協力隊が何人かいらっしゃるのですが、その人たちの外部の目を見た勝山の活性化に取り組んでいまして、今までにない視点で取り組んでいらっしゃる方もいます。

そういったところで、外部人材、実は松田さんもこの春から勝山市の教育ITアドバイザーということで、主に子どものICT教育、プログラミングなどを中心にしたICT教育専門に携わっていただいております。

あと先ほど申し上げたおり、部活ですね。スポーツは部活というのがあるのですが、プログラミングも部活じゃないのかということと一緒に取り組まれています。

そういったところで、お金をかけてコンサルティングをするのかはまた別なのですが、

外部人材の活用、色々な視点で行動していく。それから関係人口の活用、そういったところが、第6次総合計画の中でも中心的な取り組みの一つになるんじゃないかなと思っています。

○塚本会長 はいどうもありがとうございます。せっかくですので他に何かご意見ご提案などあればどうぞ。

○富田委員 ちょっと1つ疑問に思うことがありまして、魅力ある子育て・教育って何をいうのかなと思います。要は勝山市で子育てしてみたい、教育してみたいということだと思いますが、どの市や町もそういうことってやっていますよね。それ以上に勝山が魅力あるものをつくろうと思ったときに、何があるのかなと思って聞いています。

もう1つは、集客という面で今勝山には恐竜博物館など色々施設があって、本当に魅力のある部分かなと思っているのですが、リピート率という面でいうと、他の魅力ある市町、例えば福井市や鯖江市もそうだし、石川県だと野々市市やかほく市もあるのですが、あの辺りは人口が増えているのですよね。それってやっぱり、商業施設が整っていたりとか、子育てがしやすいから集まるのかな、と思います。

じゃあ勝山に何が足りないの、という今色々な施設がある中で、短期間でのリピーターが来るか、というそうじゃないものばかりなのですよ。

恐竜博物館にしても、1年に1回でいいやとか、スキージャンプもスキー場なので季節性があるじゃないですか。

他の地域ってそうじゃなくて、短期間のリピート率が高いので、色々な人が集まります。僕も福井市の人間です。勝山はうちの家内の実家なので来ますが、言い方悪いですが、そんなに来たいと思わないです。せっかく今色々な施設があるので、それをもっとうまくできないんだろうかと思っています。例えば入場料をなくすことによってリピート率が良くなると思いますよね。商業の目で、色々な目で、融合できるといいのかな、と思います。

あと教育や子育てにしても、福井市内の学校を色々見ている、勝山で子育て教育してみたいかな、と思った時に、今はそんなに魅力を感じない。だから今からやってみようと思っても、じゃあどうなのかな、大変だよなってそんな気持ちで今皆さんの感想を聞いていました。

○山内委員 他所の人が見た時に勝山をどう思うかというのをきちんと聞いておかないと、自分達だけで集まってどうしようこうしようって言うても、どうだろうという気はします。他所の人から見えている意見を聞きたいと思います。

○塚本会長 はい、ありがとうございました。今日はブレインストーミングなので、あえて話をまとめる必要はなく、できるだけ色々な角度から色々な意見を出してもらうことが主なので、自由に発言いただければいいと思います。

○松田委員 今ちょうど小中学生ぐらいの子、僕は小中学生ぐらいの子がいる世代ですが、やっぱり漠然とあるのです。学校で受けている授業でこの子達本当に10年後20年後ちゃんと飯食って行けるのかなこんんで、という漠然とした思いが。

同世代の方不安に思いませんか。今小中学校でやってる授業をたまに見たりしますが、このまあいって、これ本当に10年後20年後の社会でやっていけるのか、という不安があるのです。今の時代の親って、結構そこに不安と言うか、不信みたいなものがあると僕は思います。そんな中で、どこにもないような教育作り上げたらそれはもうすごい強みになると思うし、そもそも外から比べてこんなによいよ、と呼び込むためにやりたいんじゃないかと、10年後20年後にここの子供たちが勝山の社会の中で活躍するために色々話したいというだけの話なので、比較してどうかというのはそんなに関係ないのかな、と思います。

もう勝山で育った後は勝山から出ていだけ、みたいな教育をこのまま続けるということに僕は疑問があるというか、そういう感じです。大学行って国の官僚になって勝山に地方交付税をたくさん落とすみたいな、そういう大きな流れを大局的に見てやっているならそれも1つですが、それって今後の令和の時代に、そんなものが果たして今の世界の親や子供たちの目標になり得るのかというのはちょっと疑問かな、と僕は思います。ブレインストーミングなので、こんな感じです。

3 閉会

閉会の挨拶

○中村委員 さっき言われていましたが、外の視点はすごく大事だと私は思います。しつこいですが、家の中にいると慣れてなにも分からなくなってしまうんですが、外から人が来ると「なんだここは」となると思います。大事なのは、外部の目を入れることだと思います。以上です。